



秋田市大森山より



題 字
初代会長 松野 盛 吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0001
秋田市中通4丁目3-23
秋 田 県 消 防 協 会
会 長 中 泉 松 之 助
電 話 018-832-3791
FAX 018-834-2706

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電 話 018-862-8760

平成十七年度全国統一防火標語
『あなたです
火のあるくらしの
見はり役』

年頭のあいさつ



秋田県消防協会
会長 中 泉 松 之 助

平成十八年の新春を迎え、各市町村の消防職員はじめ消防団員の皆様、謹んで新年のあいさつを申し上げます。

消防関係者の皆様方には、火災・災害等から県民を守るため、昼夜を問わず、献身的に活動されていることに対しまして、深く感謝するとともに心から敬意を表す次第です。

昨年、私事でありましたが自治功労として藍綬褒章を受章することができましたこと皆様方に改めて御礼申し上げます。国外では、パキスタン北部の地震による

新春を迎えて



秋田県知事
寺 田 典 城

あけましておめでとうございます。県民の皆様には、清々しい気持ちで新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

消防団員並びに消防職員の皆様には、あらゆる災害から県民の生命、身体及び財産を守るという崇高な使命のもと、郷土愛護の精神と旺盛な責任感を持って、日夜消防の任務遂行に御尽力されておられますことに対して、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。さて、昨年を振り返ってみますと、台風

被害、米国ニューオリズではハリケンの来襲による州住民の避難や山林火災、テロによる被害等が地球各地で発生しています。

国内においては愛媛県の林野火災、九州・中国地方を中心とした台風十四号による集中豪雨、そして福岡県西方沖地震などがあります。県内においては、昨年は、十六年度のような数多くの台風上陸や水害等による大災害に見舞われなかった年でありましたが、秋田市千秋公園本丸にあります消防殉職招魂碑に隣接している神社が放火により焼失、また、各地で住宅火災による焼死事故が起こっています。誠に恐ろしく、このように火災現場で活動する消防団員は、近年、減少傾向にあり、サラリーマンに呼び掛けて消防団員を確保せざるを得ない状況にあります。人口の減少に伴い定員を満たすことがなかなか困難

第十四号等により多くの生命と財産が失われたほか、JR西日本福知山線列車事故で乗客百七人の尊い生命が奪われるなど、私達の日常は災害と背中合わせにあり、日夜その危険にさらされていることを改めて実感させられた年でありました。

また、目を海外に転じますと、スマトラ沖大地震に伴って起きたインド洋大津波、米国の災害史上最悪の被害をもたらしたハリケーン「カトリーナ」の襲来、そしてパキスタン・イスラム共和国での大地震などの巨大災害が発生し、一瞬にして想像を超える人命が奪われております。

今日、社会情勢や都市構造の多様化に伴い、災害の態様も複雑化、大規模化の傾向にあり、更なる消防防災体制の確立に努め、「安全で安心できる災害に強いまちづくり」

難状況下にあります。昨今の全国女性消防団員活性化大会での活動報告等を垣間見ると女性団員への認識が高まりつつあります。こうした中、県内においても消防本部所属の女性消防団員の採用や募集の知らせが入り込んでおり期待するものであります。

また、県協会と致しましては、消防職員・消防団員の福利厚生事業の充実を図りつつ、県民の安心・安全なまちづくりのため、日頃から、さまざまな訓練や防火思想の普及を行っています。地球規模で温暖化が進行する中、いつ自然災害が発生するかわかりませんが、県民を守るために万全を期しても限界がありますので、日頃から家族で話しあつて災害に対する知識と心構えを持つとともに、家庭から火事は絶対出さないことを誓いあつていただきたいと思います。

終わりに、市町村合併により広域化等になった消防団には、万全の体制をもって火災、災害のない県土を守っていただきたいことを願いつつ、消防職員・消防団員の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念し新年のあいさつと致します。

を推進してまいりたいと心を新たにしております。

現在、県では、我が国が武力攻撃やテロ攻撃等を受けた場合に備えて、秋田県国民保護計画を策定中でありますが、このような有事の際においては、過去に例を見ない災害等の発生に対して、迅速かつ有効な対応が求められており、消防団員が担う役割はますます重要となっております。

皆様には今後とも安全な地域社会の確保のため一層の御尽力をお願い申し上げます。終わりになりますが、皆様の御健勝と今年が災害の少ない平穏な一年でありますように、心から祈念申し上げます。新年のごあいさつと致します。

年頭のご挨拶



消防庁長官 板倉敏和

平成十八年の新春を迎えるにあたり、全国の消防関係者の皆様にご挨拶申し上げます。日頃のご尽力に対して心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は一昨年に比べ、地震や風水害等による被害は減じたものの、大規模な列車事故が発生する等、近年の災害は、頻発、多様化、大規模化の様相を呈しており、様々な災害に対し、迅速かつ的確に対応していくことが求められるとともに、有事に備えた国民保護など、新たな対応も必要となつてきています。

このようなか、我が国に大きな優位性がある国民の安心・安全を維持向上させるため、消防防災力を強化し、災害等から国民を守る体制を整え、大きな変革の時代に対応していかなければなりません。

このため、消防庁では、国民保護及び大規模災害への対応力を強化するため、国民保護・防災部を設置し、消防庁ヘリコプター1の整備、大規模災害時における初動時の情報収集、緊急消防援助隊の派遣体制の整備等を図るとともに、国民保護法の施行に伴い、昨年三月には、都道府県国民保護モデル計画を作成し、本年度中には、市町村国民保護モデル計画を作成し、皆様にお示しする予定としております。

また、大規模災害やテロ・有事等に対し、全国的見地から国民の安心・安全を確保する体制を強化するため、緊急消防援助隊の登録部隊数を増強するとともに、高度な救助用資機材、特殊車両及び高度な救助技術・知識等を兼ね備えた救助隊員で構成される「特別高度救助隊」、「高度救助隊」を創設することとしています。

さらに、少子高齢社会の進展や市町村合併の推進を踏まえ、今後の消防体制のある

べき姿について各消防本部において十分に御議論いただくことが重要だと考えております。消防庁においては、「今後の消防体制のあり方に関する調査検討会」の検討結果を受け、今後の消防体制の更なる強化のために消防本部の広域化を推進するための新法を次期通常国会に提出すべく、現在検討を行っております。

一方、大規模災害に対応するためには、消防力の強化のみならず地域の防災力を強化し、消防との連携を図っていくことが重要であり、消防団・自主防災組織の充実強化をはじめ、地域単位でのきめ細かな安心・安全の地域づくりのため、地域安心安全ステーション事業や地方公共団体と事業所間の防災協力の推進等の施策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会 会長 徳田正明

平成十八年の輝かしい新春を迎え、全国消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

消防団員・職員の皆様、常日頃、防災の最前線にあつて、昼夜を問わず、火災をはじめあらゆる災害と闘い、国民の生命、身体、財産を守るため、献身的にご努力されていることに対し深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。また、防災関係諸団体の皆様が平素から、防火防災に深いご理解を賜り、熱心に活動されていることに対して、心から敬意を表する次第であります。

我が国は、自然災害の多発国であり、こ

れまでも多くの大災害に見舞われ、甚大な被害を受けております。特に昨年は、福岡県西方沖地震の発生、兵庫県尼崎市の鉄道事故、さらには記録的な集中豪雨等、予期せぬ大規模な災害が相次ぎ、多くの尊い人命と貴重な財産が奪われました。

また一方で、近年の急激な社会情勢の変化の中、火災その他の災害は複雑多様化し、住宅火災における死傷者は後を絶たず、その対応には大変な困難を伴うこととなっております。

このような中で、我が国消防は、関係者の懸命の努力により年々充実強化され、国民の大きな信頼と期待を得るに至っておりますが、大型地震の発生が現実の問題として論議され各方面で対応策を進められる中、地域の安全と住民の安心を確保するためには、これまで以上に英知を結集し、装備の充実等を進めるとともに、崇高な消防精神の高揚と消防の一層の団結強化が不可欠であります。

当協会としましては、こうした状況を踏まえ、引き続き、消防団員の確保・増員をはじめ、消防資機材の整備充実、優良消防団員・職員の表彰、消防団員の教育訓練などを積極的に推進するとともに、女性消防団の活性化、消防団員・職員の福祉対策事業、互助年金事業の拡大等を図り、消防団員・職員の益々の士気高揚と我が国消防の発展のため、今年も最大限の努力を傾けて参りたいと考えております。

全国的消防関係者の皆様におかれましては、地域住民の安全、安心と郷土の繁栄のため、より一層のご精進を頂きますようお願い申し上げます。



平成十八年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶申し上げます。消防大学校は、昭和二十三年に消防講習所として創設されて以来、本年で四十七年を迎えますが、その間、関係各位のご支援、ご協力のもと、四万余人の卒業生を送り出し、全国消防職団員の幹部教育機関として、着実なる発展を遂げてまいりました。

消防大学校長 清矢守



さて、平成十八年は、昨年八月に「消防大学校における教育訓練等に関する検討会」からいただいた提言に基づく改革のスタートの年であり、前年度と比べて教育訓練計画を大きく変更いたしました。

まず、近い将来に消防幹部職員の大規模退職を迎えることから中核幹部職員の養成が急務であるため、本科と幹部研修科を再編して幹部科を新設し、年四回実施することとしました。これは、各消防本部の中核幹部職員養成と合わせ、広域的な応援・受援能力の確保をねらいとするものであり、従来の幹部研修科に比べて指揮能力教育や実科要素を大幅に増やす予定ですので、各消防本部で従来にも増して活用されるよう期待しております。

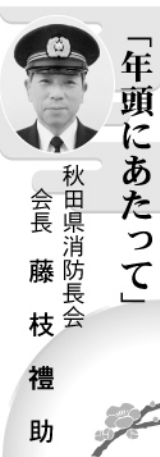
また、企業災害の多発や技術基準の性能規定化に対応するため危険物科を新設し、危険物災害・行政動向に関する講義・実務研究を中心としつつ、あわせて理化学の学習や施設研修などを行う予定です。

さらに、大規模災害等に対する全国的見地からの人命救助体制を強化するため、特別高度救助隊、高度救助隊の隊長クラスを対象に教育コースを新設し、必要な能力養成を図ることとしました。

なお、専科教育の各学科の目的を、各分野の「教育指導者等としての資質向上」と明示し、内容を一層教官教育に特化させてまいります。

これらの教育訓練の充実を通じて、わが国の消防を担う幹部職員を質・量ともに十分に養成し、国民・住民の期待に応えられるよう努めてまいりる所存であります。

最後にになりましたが、今後とも、消防大
学校に対し、変わらぬご理解とご支援をお
願い申し上げますとともに、皆様方の一層
のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、年
頭のご挨拶といたします。



秋田県消防長会
会長 藤 枝 禮 助

「年頭にあたって」

平成十八年の輝かしい新春を迎え、県内
の消防関係者の皆様に謹んで年頭のごあい
さつを申し上げます。

皆様におかれましては、防災の最前線に
立つて、火災をはじめとするあらゆる災害
と闘い、地域住民の生命、身体、財産を守る
ため、日夜献身的に活動しておられます
ことに対し、深く感謝を申し上げますと
もに、心から敬意を表します。

我が国の消防は、昭和二十三年に地域と
密着した自治体消防として発足して以来、
関係各位のたゆまぬご努力により、組織
人員、装備施設等において着実な発展を遂
げ、火災の予防、警防活動はもとより、救
急、救助から地震、風水害等への対応まで
広範な活動を行い、国民の負託に応えてき
たところであります。

さて、昨年の災害を振り返りますと、地
震、台風、集中豪雨が全国各地で発生し、
多くの尊い人命と貴重な財産が奪われ、改
めて自然災害の多発国であることを痛感さ
せられました。

これら大規模災害に対応すべく、緊急消
防援助隊を法制化し、消防庁長官の指示権
の創設等、体制の充実強化を図ったところ
であり、消防の役割が一段と重要なものと
して位置づけられました。

「平成の大合併」に伴い本県の自治体の
数も以前に比べ約三分の一となり、その分

消防の組織基盤が強化されておりますが、
更に「地域の安全と住民生活の安心・安全
確保」のため、行政区域を越えたあらゆる
災害に対し、より迅速かつ柔軟な広域連携
が図られますよう、各関係機関のご協力を
切にお願ひ申し上げる次第であります。

秋田県消防長会といたしまして、平成
十八年度総務省消防庁重点施策であります
「地域防災力の強化」をはじめとする各項
目につきまして、各消防長の英知を結集し、
地域住民が安心して暮らせる「災害に強い
安全なまちづくり」の実現に向け全力を挙
げて取り組んでまいります。

皆様におかれましては、刻々と変化する
社会のニーズを的確に捉え、なお一層のご
精励をお願い申し上げますとともに、皆様
方のご健勝と本年が災害の少ない平穏な一
年でありませう、心から祈念申し上げ、
年頭にあたってのごあいさつといたしま
す。



秋田県市長会
会長 佐 竹 敬 久

年頭のあいさつ

全県消防関係者の皆様に、謹んで年頭の
ご挨拶を申し上げます。

また、皆様には、日々、技術力の向上と
士気の高揚に努められ、各種の災害から地
域の安全と安心を守るため、全力を挙げて
取り組まれておりますことに、心から敬意
を表し、深く感謝を申し上げます。

さて、近年、大地震や大津波、大型台風
などの自然災害が地球規模で多発しており
ますが、その惨状を見るにつけ、改めて災
害の恐ろしさを痛感するところでありま
す。このような中、多くの貴重な教訓をも
たらしました阪神淡路大震災から早くも十
年が経ち、また、いまだ復旧・復興の途に
ある中越地震やスマトラ沖地震から一年が
過ぎております。十年前、私たちは、初動
体制やライン、情報伝達手段の確保、
被災者対策等々の多くの問題に直面しまし

た。そして一年前、都市型とは異なる中山
間地域の災害、あるいは津波による被害に
ついて、日頃の備えや被災者対策の再検証
など新たな課題が浮き彫りとなったところ
であります。

各都市においては、施策の検討・研究は
もとより、地域住民が避難や救助等に大き
な役割を果たしていることを踏まえ、自主
防災組織の育成や地域と連携した訓練の実
施等、各般の施策に積極的に取り組んでい
るところであります。幸いにして、災害の
最前線においては、消防に携わる皆様方、
関係各位のご努力の積み重ねにより、あら
ゆる事態に即時対応できる体制を確立され
ており、相次ぐ災害に対して、消火・救助
活動はもとより、避難誘導、警戒活動等に
迅速・的確に対応されておりますことは、
住民が消防に寄せる期待に大きく応えるも
のであり、誠に心強く、私も多に誇りに
思う次第であります。

今、宮城県沖をはじめ日本各地において、
極めて高い確率で地震が発生することが予
想されております。過去のさまざまな教訓
を活かして、いかに被害を最小とすること
ができるか、消防の果たすべき役割と期待
される責務は一段と重きを増しております。

目まぐるしく変化する社会・自然環境の
もと、被害の拡大を阻止し住民の安全を確
保するため、どうか皆様におかれましては、
地域防災の中核として、一層のご精進とご
尽力を賜りますようお願い申し上げます。
終わりに、今年こそは平和な一年であり
ますことを願ひ、関係各位のご健勝とご発
展を祈念いたしまして、ごあいさつといた
します。



秋田県警察本部
本部長 杵 淵 智 行

新年のあいさつ

消防関係者の皆様、明けましておめでと
うございます。皆様には、日夜防災の最前

線に立つて、献身的に職務を遂行され、ご
活躍されていることに対し敬意を表すると
ともに、平素から警察に対するご理解とご
協力を賜っておりますことに厚くお礼を申
上げます。

昨年は、国内各地で地震や集中豪雨、台
風による災害が多発したほか、JR西日本
福知山線列車事故等、国民の安全を脅かす
様々な事案も発生し、その犠牲者は多数と
上りました。また、八月宮城県沖を震源と
する震度6弱の地震では、多数の重軽傷者
が出たほか、東北新幹線が架線の断線によ
り運休したことから十万人以上の乗客が足
止めされ県民生活に多大な影響を及ぼした
ことは記憶に新しいところであります。

このような現場で、消防職員が使命感を
もって被害者の救出救助活動に取り組んで
いる姿を拝見しますと、同じ使命を有する
警察関係者として、心を打たれるとともに
意を強くする次第であります。

近年、このような大規模災害等に加えて、
米国における同時多発テロ事件以降、世界
各地で無差別テロが頻発し、国内において
もテロ発生の恐れが指摘されている中で、
今後、消防、警察を始めとする防災関係機
関には、万一の緊急事態に対応できる装備
資機材の充実強化や地域住民と連携した各
種訓練など防災体制の構築が求められると
ころであります。警察としても、災害等に
対する不断の備えを怠ることなく、その使
命を果たしてまいりたいと考えておりま
す。

県警察では、本年の警察運営の基本方針
を「安全で安心な暮らしを守る力強い警察
」と、県民のために県民とともに」とし、大
規模災害や突発重大事案の発生に際して
は、皆様と緊密な連携を図りながら、その
対策に万全を期す所存でありますので、な
お一層のご理解とご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

終わりに、皆様のご健勝とご発展を祈念
いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新 年



らあなたを守ります。



二ツ井藤里地区行政組合消防本部
消防長 藤田 定



北秋田市消防本部
消防長 畠山 勇悦



大館市消防本部
消防長 鳴海 義衛



鹿角広域行政組合消防本部
消防長 齊藤 寛樹



五城目町消防本部
消防長 渡邊 彦兵衛



湖東地区行政一部事務組合消防本部
消防長 土橋 次男



山本郡南部地区消防本部
消防長 田中 宣夫



能代地区消防一部事務組合消防本部
消防長 日沼 一之



にかほ市消防本部
消防長 高橋 誠



由利本荘市消防本部
消防長 福岡 憲一



秋田市消防本部
消防長 藤枝 禮助



男鹿地区消防一部事務組合消防本部
消防長 佐藤 政行



湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部
消防長 武石 忠



横手市消防本部
消防長 永沢 正毅



大曲仙北広域市町村圏組合消防本部
消防長 里見 喜代治



謹 賀

今年も火災・災害から



大館市田代消防団
団長 佐藤 禮造



大館市大館消防団
団長 成田 十喜男



小坂町消防団
団長 本田 隆爾



鹿角市消防団
団長 米沢 将之助



能代市消防団
団長 中田 潤



上小阿仁村消防団
団長 齊藤 博臣



北秋田市消防団
団長 中村 信一



大館市比内消防団
団長 小松 永悦



峰浜村消防団
団長 田村 一



八森町消防団
団長 佐々木 宣幸



藤里町消防団
団長 淡路 龍美



二ツ井町消防団
団長 池端 又芳



五城目町消防団
団長 宮城 清之助



八竜町消防団
団長 佐藤 良廣



山本町消防団
団長 石井 喜美彦



琴丘町消防団
団長 伊藤 壽悦



潟上市消防団
団長 鎌田 健一



男鹿市消防団
団長 米屋 兼男



八郎潟町消防団
団長 村井 昇



井川町消防団
団長 三浦 喜美雄



にかほ市消防団
団長 佐藤 勝 男



由利本荘市消防団
団長 菅原 正 一



秋田市消防団
団長 中 泉 松之助



大潟村消防団
団長 阿 部 文 夫



仙北市田沢湖消防団
団長 大石 正文



仙北市角館消防団
団長 林 崎 一 美



美郷町消防団
団長 永 井 久 雄



大仙市消防団
団長 間 瀬 堅 一



横手市平鹿消防団
団長 奥 久 雄



横手市増田消防団
団長 季 子 和 春



横手市横手消防団
団長 太 田 悦 郎



仙北市西木消防団
団長 浅 利 重 昭



横手市山内消防団
団長 下 夕 村 勲



横手市十文字消防団
団長 高 橋 和 一



横手市大森消防団
団長 稲 葉 盛 榮



横手市雄物川消防団
団長 佐 々 木 信 義



東成瀬村消防団
団長 佐 々 木 清



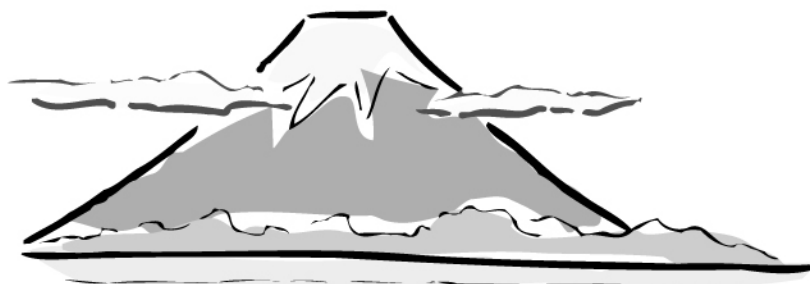
羽後町消防団
団長 野 口 久 勝



湯沢市消防団
団長 奥 山 利 八



横手市大雄消防団
団長 五 十 嵐 康



新年のご挨拶



第二十一普通科連隊長
兼秋田駐屯地司令
一等陸佐 高木 新一

平成十八年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。消防業務の第一線で日夜献身的に職務を遂行され、ご活躍される消防関係者の皆様のご努力に対し敬意を表しますとともに、平素から自衛隊に対する御理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近頃は想像を絶する大規模災害が発生しており、不気味な不安を感じているのは私だけではないと思います。アメリカ南部の大型ハリケーン、インド洋における大津波等世界各地で大災害が襲っております。日本の国土は、地震多発地帯であり、台風の通り道でもあります。毎年、日本のどこかで地震・台風による被害が発生しております。

幸いなことに秋田においては、昭和五十八年の日本海中部沖地震以来、多数の人命を失う大災害は発生しておりませんが、油断は禁物だと思っております。災害においては、消防署及び消防団の皆様が地域に根ざした日頃からの地道な活動が本場に大事だと思っております。我々自衛隊としても、消防、自治体と連携して迅速に行動できるよう即応態勢を更に強化しなければならぬと考えております。

本年も各種防災訓練に積極的に参加し、防災関係機関との連携強化に努め、県民から信頼される組織を目指します。終わりに、本年が災害のない平穏な年でありますようお願いするとともに消防関係者の皆様の安全と益々のご健勝・ご発展をご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。

年頭のあいさつ



秋田県消防学校校長
校長 千葉 義直

新年あけましておめでとうございます。平成十八年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様におかれましては、日ごろ、火災をはじめあらゆる災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため献身的にご尽力されておられることに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、国内においては福岡県西方沖地震、JR福知山線電車転覆脱線事故、台風十四号など、国外ではアメリカのハリケーン「カトリーナ」、パキスタン地震など、一昨年に引き続き、国内外で自然災害が多発した年でありました。このような状況の下、災害等から地域住民の生命、財産等を守るといふ消防の責務は、ますます大きなものとなり、消防に対する地域住民の期待も高まっております。

こうした中、消防職団員が地域住民の期待と付託に応えるとともに、消防機関を取り巻く社会情勢の変化に的確に対応していくためには、職務に関する知識、技術の向上が不可欠であることは申し上げるまでもなく、消防職団員に対する教育訓練は従来にもまして重要なものとなっております。

消防学校といたしましては、特に、地域防災力の要として期待される消防団員の方々に対し、実態に即したより効果的な教育訓練を行うために、地域の特性、事情を十分に配慮しながら、土・日を中心とした「一日入校」の開講や教官の派遣による「現地教育」の充実・強化のほか、「消防団員基礎教育」についても、それぞれの地域における消防団員教育活動と連携した形で実施について具体的に検討するなど、引き続き教育訓練機会の拡充に努め、消防教育訓練機関としての役割をしっかりと果たすべく努力していきたくと考えております。

ので、相変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健勝と本年が災害のない平穏な一年でありますよう、心から祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

年頭のあいさつ



秋田県指定水防管理
団体連合協議会長
大館市長 小畑 元

平成十八年の新春を迎えるに当たり、全県の消防・防災関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げますとともに、平素からの御尽力と昼夜を問わず献身的な活動に對しまして深く感謝申し上げます。

昨年は、九月の台風十四号により、九州を中心に死傷者約二〇〇名、家屋の浸水二二、〇〇〇戸という大きな被害がありました。県内でも四月には北秋田市で大雨による土砂崩れや道路の冠水、また八月には男鹿市でも約一〇〇世帯の住家の浸水や土砂崩れの被害がありました。いずれも人命の被害が無かったことは不幸中の幸いでした。

このような場面場面では、水防団の皆様には被害を最小限に食い止めるためいち早く対処していただいたところであり、改めて深く敬意を表したいと思います。災害時の人的・経済的被害を軽減するためには避難対策を含めた総合的な減災対策を推進する必要があります。

このため、当協議会においても、治水事業の促進に加え、洪水や土砂災害に関する情報提供やハザードマップの作成、危険情報の周知等について、関係機関に働きかけて参ります。しかし、地域防災力向上のキーポイントは、何と言っても人です。災害の際には消防団の皆様をはじめとした地域住民の結束こそが最大の地域防災力です。消防団の皆様におかれましては、今後とも安全安心な地域づくりの一翼を担い、より一層の御活躍を祈念し、年頭の御挨拶とさせていただきます。

消防互助年金

『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



あなたの老後は大丈夫
公的年金+消防互助年金で
生活アップ

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

- 財団法人日本消防協会 消防互助金事業団
- 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
- 日本消防会館 TEL.(03)3503-1481-5
- http://www.nissho.or.jp/

(日本消防協会ホームページ)

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

